

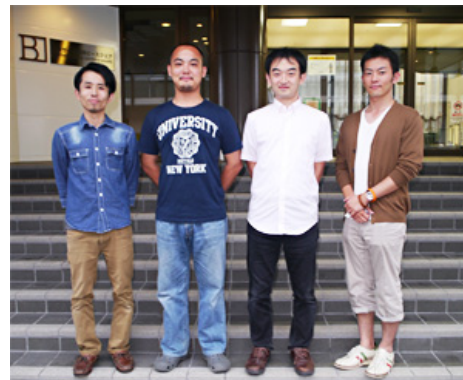
## 地域社会とともに

### 日本での社会貢献活動

#### チャレンジ精神あふれる若手起業家を支援する「東海若手起業塾」

##### 「東海若手起業塾」

近年、日本では多様な社会的課題の解決や地域の活性化などにビジネスとして取り組む若者が増えています。しかし、ビジネスを成長させるための事業経験や人的ネットワークが不足しているために、さまざまな経営問題に解決策を見出せない場合があります。そこでブラザー工業は、2008年、本社のある東海地域の若手起業家を支援するために、起業家支援に取り組む国内の複数のNPOが協働で運営する「東海若手起業塾」への協賛を開始し、2016年3月までに合計38名の起業家を支援しました。この塾では、起業家に対して、事業戦略検討会を開催したり、消費者とともに製品開発する機会を提供したりするなど、それぞれの事業を成長軌道に乗せるためのさまざまな活動を実施しています。9年目となる2016年は、5月に支援を希望する起業家の募集が行われました。8月の選考会で選抜された起業家は、2017年3月の最終報告会までの7カ月間、「東海若手起業塾」の実行委員会とともに、ビジネスモデルや事業戦略の質の向上を目指します。



東海若手起業塾に参加した若き起業家

##### 「東海若手起業塾」の支援活動にブラザー従業員が参加

2012年度からは、従業員が「プロボノ\*」として参画し、会社の業務で培ったスキルを支援に生かすとともに、起業家のチャレンジ精神に触れる活動をスタートしました。2015年度は、選考された3名の従業員が、それぞれ担当する起業家の「伴走者」として支援に取り組みました。このプログラムに参加した従業員からは、「事業者ではないものの、自分事のように考え、議論し、活動に取り組んできました。プロボノ活動で得た人脈と経験を、今後の業務やボランティア活動に生かしたいと思います。」とコメントがあり、起業家から積極性やチャレンジ精神を学ぶ良い機会になっています。

\*: プロボノ: 会社の業務で培ったスキルを、それぞれの起業家の支援に生かす活動



従業員も起業家支援の現場に参画

##### 起業家の成長と地域のチャレンジ風土醸成に貢献

「東海若手起業塾」で支援を受けた起業家の中からは、日経ウーマン・オブ・ザ・イヤーの受賞者が生まれました。また、農林漁業者と連携して新商品の発売を実現し、経済産業省と農林水産省が共同で取りまとめた「農商工連携ベストプラクティス30」に選出された起業家も生まれています。「東海若手起業塾」を通じて、ビジネスを成長させるための事業経験や人的ネットワークを得て、経営が安定し、収益が増加する起業家も増えています。

2015年には、これまで支援を受けた起業家たちが独自の会を発足し、現在支援を受けている起業家の良きアドバイザーとなっています。さらに「プロボノ」として参画した従業員自らが、社会的課題の解決や地域の活性化の活動に参加し始めるなど、8年間の継続した取り組みによって、「東海若手起業塾」の枠を超えた活動へと広がっています。